

1	公開授業実施日時	2018年2月22日（木）13:24～15:12
2	場所	京都教育大学附属京都小中学校6年A組教室
3	対象	6年A組（小学校6年生）35名
4	授業者	森脇 正博
5	島名	グローバル・エシックス
6	単元名	「新・貿易ゲームー今、私たちにできること」（Cー（13）公正、公平、社会正義）
7	関連する教科・領域	社会科
8	単元の目標・ねらい	開発途上国と先進国との間にある格差を疑似体験する中で、それぞれの立場における考え方があることを知るとともに、今後どのような姿勢が求められるか、自分なりの見解をまとめる。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	自由貿易や経済のグローバル化がもたらす問題点について、自分なりの考えを持ち、仲間と考えを交流できたか。 ・グローバル社会に見られる課題を知る。 ・社会的な課題に対するさまざまな捉え方があることを理解することができる。 ・世界の人々とともに生きていくための課題の解決に自分がどのように関わることができるかを考えることができる。
11	単元の評価規準【教科・領域として】	道徳科においての評価はどうあるべきか。少し自分の中で固まっていないので、記述が難しい・ あえて書くならば、「ワークショップを通して、『今、自分にできることはどのようなことか』と省察できたか。といった文になるかと思う。
12	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	・多様な文化があることを理解し尊重している。 ・国際親善に努めていくことの大切さを理解している。 ・グローバル化の時代にあって、自国を中心とする見方ではなく、対等な他国として世界の国々を捉えようとしている。
13	単元計画	全6時間 ＜第1次＞世界の国々の現状を知る 第1時 先進国と開発途上国の現状を知り、サプライチェーンの理解を図る。 第2時 需要と供給の関係（主に労働環境を中心）について理解を深める。 第3時 公正な取引の重要性を考える。ーフェアトレードの現状と課題 ＜第2次＞国際協力の1つとしてのフェアトレード 第4・5時 自由貿易や経済のグローバル化がもたらす問題点に気付く。 ＜第3次＞フェアトレードから地球環境を考える 第6時 私たち一人一人ができる国際協力のあり方について考える。
14	本時の目標	・自由貿易や経済のグローバル化がもたらす問題点について気付き、それを解消するための方略について考える。
15	本時の展開	《別紙指導案を参照》

16	グローバル・スタディーズ としての特徴	<p>○当為論や短絡的な結論に陥らないようにすること。</p> <p>世界の国々における資源的な格差や技術的な格差の現状を知った子どもたちは、当然のことながら、その格差を解消するためにどうすることが大切かを導き出そうとする。しかし、そこに至るまでには様々な要因が潜んでいる訳で、そう簡単に解消しないからこそ、根深くそこに問題として残っているのである。</p> <p>だからこそ、他国には同じ年代の子が、日本で生活する子のように十分な食事を摂ることもままならない現状を知った子どもたちに対し、なぜそのような状況になっているのかを追求したくなるような問いを提示し、「対岸の火事」「高みの見物」にならぬよう、自分自身の問題として捉えられるよう指導しなければならない。</p> <p>この事を踏まえれば、今回の『新・貿易ゲーム』の実践が、ただのワークショップ的な位置づけにならないようにすることが重要であり、この取組を通して、「今、自分にできることは何なのか」を深く追求させることが求められる。</p>
17	授業者から一言	<p>生徒たちは、ワークショップを通して、世界には「資源はあるが技術がない国」「技術はあるが資源が少ない国」など、様々な国が混在していることに気付いていった。知識として教えることも大切な場合もあるが、今回のように、体験からより深く学び合えることもあることを実証できたように思う。</p> <p>生徒は各々、先進国・開発途上国という言葉とおおよそのイメージをもってはいるものの、そのことから引き起こる状況はなかなか想起できていなかった。</p> <p>今回の実践を通して、自由貿易や経済のグローバル化がもたらす問題点に深く思いを巡らせられたこと、そして、その問題を打開する方略を考えられたことに、大きな成果を見いだせた。</p>

道徳学習指導案（小学校高学年 A）

- 1 日 時 ○○年○月○日（ ） 第○校時
- 2 対 象 第6学年○組（○名）
- 3 場 所 教室
- 4 資料名（内容項目）「新・貿易ゲーム—今、私たちにできること—」（C-（13）公正，公平，社会正義）

5 学級の実態把握（仮想） 高学年

身近な外国名や現在の世界情勢については、新聞やニュースで聞いたことがあるという程度の児童がほとんどであり、2割程度がより具体的な内容を知っているという状況である。考えのほとんどはニュースや保護者からの受売りである。

集団的には、論理的に説明できる子や感性で発表する子など、多種多様であり、ペア学習やグループ学習にも積極的である。

6 ねらいとする価値観（フェアトレード論をふまえて）

私たちの生活を支えている様々な商品は、グローバルなネットワークの中でつくられる協働の産物と言える。しかし、そのようなグローバルな商品生産は、経済的な弱者からの搾取という負の側面をしばしば持っている。フェアトレードとは、開発（発展）途上国の作物や製品を適正な価格で取引することによって、生産者の生活向上を促す仕組みと言えが、そうした仕組みについて知り、考え、議論することは、グローバル社会を生きる児童らに相応しい道徳性や倫理観の育成に資すると考えられる。

具体的には、たとえばカカオやコーヒー豆、茶やコットンなど、児童にとって身近な商品を主題に、道徳科、社会科、家庭科などの教科との連携を図り、「商品生産のグローバルな理解」+「『フェアネス』という道徳的価値の理解」（内容項目 C（13）「公正，公平，社会正義」）という複合的な学習目標を追求していきたい。

7 資料について

- ①出典 開発教育協会、かながわ国際交流財団著『新・貿易ゲーム（改訂版）—経済のグローバル化を考える—』開発教育協会、2006年
- ②資料の概略（資料の内容）
上記の資料をもとに、学級の実態に合わせ、若干の改良を加え実践した。
- ③参考文献 ケイティ・ディッカー原著、稲葉茂勝翻訳・著『信じられない「原価」 買い物で世界を変えるための本』講談社、2015年

8 本時のねらい

世界の国々には、資源的な格差や技術的な格差が存在することなど、幅広い観点から現在の世界情勢をつかませる。その上で、その格差を解消するために、私たちができることや、仲間が集まることによってできること、そして、それが国際協力という形で実現していく世の中を創造することの大切さについて、主体的・対話的で深い学びのある授業を通して考えさせたい。

9 本時の展開例 ○主な発問・指示 □指導上の留意点・支援等 ■評価の観点

区分	学習活動と内容	指導上の留意点・支援・評価	準備物
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易ゲームの方法を知る。 ○渡された（決められた）道具だけを使って、どれだけ多くの収入を得られるかを競うルールであることを徹底する。 ○先進国にはハサミや定規等（工業製品を意味する）はあるが、紙（資源）はなく、開発途上国はその逆の状況を作り、「格差」をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> □3～4人のグループを作成する。 □グループごとに格差をつけ、そのレベルにあった準備物を配付する。 □進行役は教師が担い、全体の流れを看取りながら授業の展開や振り返りの際の情報収集を行う。 	ハサミ，定規，紙，鉛筆，クリップ，封筒，分度器，コンパス等
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで相談しながら、製品を作る（課題に取り組む）。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童のやり取り状況を注意深く観察し、基本的にはグループで解決方法を模索さ 	ルールを書いた模造紙

	○進捗状況を観察する。この時の見取りが、展開後半の問いにつながることを意識する ・グループ間で道具や資源のやり取りを行う。	せる。ただし、グループ間の相互やり取りが起こらない場合は助言し、やり取りを促す。	
展開後半	・進行役の指示に従い、ルールを変更しつつ、活動する。 ○授業展開を観察しつつ、製品の価格を下落させたり（需要と供給の関係から市場価格の変動）、道具を貸し出したり（国際機関からの技術援助）、紙を配ったり（新たな資源の発見）する。	<input type="checkbox"/> グループ内での議論が滞っている場合、適宜助言する。 <input type="checkbox"/> 現状分析を行い、資源の供給過剰等にならないよう注意を払う。 <input type="checkbox"/> グループ間の「格差」が大きくなり、現実の国際社会と似た幾つかの現象が出てきたら、終了する。	
終末	・活動を振り返り、今の活動が、現在の世界の現状と似通っていることに気づく。 ・よりよい貿易のあり方や国際ルールについて議論する。	<input type="checkbox"/> 児童の議論をコントロールしつつ、ねらいに迫るよう支援する。 ■南北格差等、国際協力や自身の行動のあり方を考える。	

10 授業の実践

①指導計画

道徳科においては、様々な教材を用いねらいに迫っていく。特に今回はフェアトレードという、若干小学校高学年にとって難しい内容を扱うため、以下のように系統性を持たせた上で、本時の授業を行う。ただし、すべてを道徳の授業時間に扱うことは難しいため、社会科の授業との関連性を持たせて実施した。

第1次 世界の現状に関する児童の理解程度をはかるため、5年生までの社会科学習等を踏まえ、事前に、どのような国を知っているかといった簡単な質問項目から、世界の国々の現状をどれほど知っているか、あなたがそれらの現状を踏まえて行ったことのある（家族で行っている）行動等の項目について調査を行った。

第1時 先進国と開発途上国の現状を知り、サプライチェーンの理解を図る

第2時 需要と供給の関係について理解を深める

第2次 国際協力の1つとしてのフェアトレード

第3・4時 自由貿易や経済のグローバル化がもたらす問題点に気づく（本時）

第5時 公正な取引の重要性を考えるーフェアトレードの現状と課題ー

第3次 フェアトレードから地球環境を考える

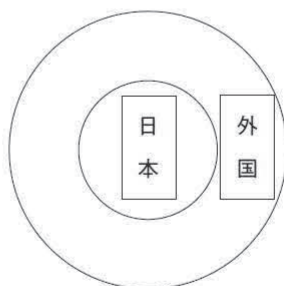
第6時 私たち一人ひとりができる国際協力のあり方について考える

②指導観

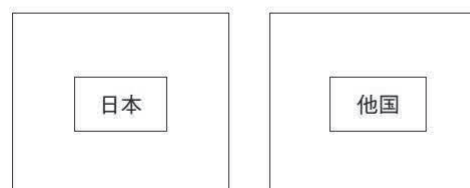
(a) 正確な情報を基に、多様な文化や価値観の存在に気づき、国際理解の幅を広げること

新学習指導要領においても、これからのグローバル化の時代に対応するために、「内容項目C：主として集団や社会との関わりに関すること」に、【国際理解、国際親善】〔第1学年及び第2学年〕「他国の人々や文化に親しむこと」が新設されただけでなく、多様な文化を尊重し国際親善を進めていくために、平成20年告示の学習指導要領の第5・6学年においては、「外国の人々や文化を大切にすることをもち・・・」と記述されていた表記を「他国の人々や文化について理解し・・・」に変更するなどの改訂が行われている。

これは、図示すれば明らかになるように、前者は日本を中心とした考え方であるが、後者は日本と他国を並列に扱っていることが鮮明に分かる。



平成20年告示の学習指導要領



平成29年告示の新学習指導要領

つまり、学習指導要領の記述からも、多様な文化があることを理解し尊重した上で、国際親善に努めていくことの大切さが求められている。またグローバル化に対応する素地を養う観点からも、自国を中心とする見方ではなく、対等な他国として世界の国々を捉えることの重要性が増していると言うことができる。

今回の実践においては、なんとなく知っている情報（たとえば、理由はよく分かっていないにもかかわらず、目にするメディアの一部の情報からアフリカ諸国は貧しい国が多いといった偏った見方）を、できる限り正確なデータを示すことで、誤ったデータを訂正し、他国の正しい現状理解を図った。このように、児童の認識をある程度そろえた上で、自由貿易や経済のグローバル化がもたらす問題点について検討を行った。

(b) 当為論（～すべき）や短絡的な結論に陥らないようにすること

世界の国々における資源的な格差や技術的な格差の現状を知った児童らは、当然のことながら、その格差を解消するためにどのようにすることが大切かを導き出そうとする。しかし、格差が生じるまでには様々な要因が潜んでおり、簡単に解消しないからこそ、根深くそこに問題として残っているのである。

だからこそ、他国には同じ年代の子が、日本で生活する子のように十分な食事を摂ることもままならない現状を理解させ、なぜそのような状況になっているのかを追求したくなるような問いを提示し、「対岸の火事」「高みの見物」にならぬよう、自分自身の問題として捉えられるよう指導しなければならない。

この事を踏まえれば、今回の「新・貿易ゲーム」の実践が、興味本位のワークショップ的な位置づけにならないようにすることが重要であり、この取組を通して、「今、自分にできることは何なのか」を深く追求させることが求められる。

(c) 他教科との関連を図ること

新学習指導要領では、これまで目標に示されていた各教科との関連が、内容の取扱いの項目に移行され、「道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意」すべきと記述されている。そのため、高学年にもなると、教材の中に様々な情報が盛り込まれてくる。

今回の実践であれば、世界情勢を知らなければ多様な感じ方や考え方をすることすらできないので、社会科における明治・大正・昭和期の時代変遷やその際の出来事（たとえば～事変や～戦争といったもの）を理解した上で行う場合とそうでない場合とでは、思考に違いが出てくることは当然のことである。

今日のまとめとして
6年 名前 ()

1 渡された袋の中には、何が入っていましたか。

2-1 自分のグループに入っていた物や周りのグループに入っていた物は、それぞれ何を表していたと思いますか。そう思った理由も書いてください。
(例：鉛筆、定規、はさみ、コンパスなど。紙をのぞく)

鉛筆	
定規	
はさみ	
コンパス	
分度器	

2-2 紙は何を表していたと思いますか。(理由もふくめ)

3 今日のグループでの活動中に、どのようなことを感じましたか。

4 今日のグループ間でのやりとりが、「現実の世界の様子」を表しているとすれば、それはどのような点ですか。理由もふくめ、書いてください。

ワークシート例